

岐阜公園菊人形・菊花展情報 第1号(10月28日)

第38回 岐阜公園菊人形・菊花展 10月24日から始まる!

秋の深まりを感じるものの一つとして、岐阜公園において今年も菊人形・菊花展を開催しています。園内には、菊作りの名人たちが丹精こめて育てた、大輪や木付けなどの作品が展示されています。また、菊人形やその周りに作られた華やかな菊庭園など、見所いっぱいとなっておりますので、是非ご来園いただきますようご案内いたします。

開催期間：平成21年10月24日(土)～平成21年11月23日(月・祝)

AM9:00～PM5:00 (会期中無休、無料)

開催場所：岐阜公園(岐阜市大宮町1丁目)

駐車場：普通車 159台(一回300円)

バス 9台(一回1,000円)

アクセス：JR岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス15分

「岐阜公園歴史博物館前」下車 徒歩2分

最新情報

『菊人形』

平成21年度菊人形テ-マ

『フロイスに食膳を運ぶ信長公』

1569年、信長が宣教師ルイスフロイスらと会見した際に、彼らを居室に招き入れただけでなく、自ら食膳を運ぶなど、激情型の武将とは思えない逸話をもとにつくられた場面です。

写真 左から ロレンソ(手前) フロイス(奥) 信長(中央) 茶筌丸(奥) 奇妙(手前)



『菊庭園』

金華山をイメージして作られたこの庭園には、約20種450鉢の小菊を使用しています。

山裾の懸崖の菊は満開で、山の小菊は開花までもう少しかかりそうです。まるで、秋の実りの後に山の紅葉が始まる様を表しているようです。

『山菊総合花壇』

木付け、石付け及び文人等、5鉢以上の作品を組み合わせ、一つの花壇として構成したものです。これは、この地方特有の作風で、他ではほとんど見られず本菊花展の特色を表すものです。
(見頃は11月中旬)



『大菊花壇』

大輪菊の3本立ち12鉢もしくは、一本立ち20鉢をもって一つの花壇を構成したものです
(見頃は11月初旬)



大輪(厚物)

『美濃菊花壇』

皇室の紋章の図案といわれる一文字菊を祖先に持つこの菊は、名前から推察されるとおり岐阜が発祥の地です。

この花の特徴は花卉の表裏の色が異なるものがあり一種のそう重みと艶やかさを持っています。

(見頃は11月初旬)





『大菊小作』

7月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間に育成し花を楽しむもので、一鉢一本立てとして10鉢をもって一花壇を構成します。（見頃は11月初旬）

『小菊盆養』

この部門は、全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成したもので、あたかも樹齢数拾年を経て現在に咲き誇っている感をかもし出しています。

（見頃は11月中旬）



『自由花』

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

（見頃は11月中旬）



『その他』

千輪仕立て



大池菊人形(造花)

